



学校だより

小和田小学校
令和5年冬休み号

学校教育目標

「心も体も丈夫な子」「思いやりのある子」「自ら学ぶ子」

学校経営方針

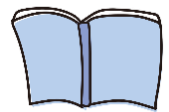
一人ひとりを大切に、社会力のある人を育み、みんなの笑顔がある学校

算数に自信と力が、国語には読書と日常生活を生かして

—令和5年度全国学力・学習状況調査結果報告—

校長 大野 洋

令和5年4月18日、全国の小学6年生・中学3年生を対象に『全国学力学習状況調査』が行われました。今年度は、国語と算数、児童質問紙調査がありました。本校の6年生も調査に参加し、個人の結果はすでに個人票としてお配りしております。本調査により測定できるのは、あくまでも学力の一部であること、学校における教育活動の一側面であり本校の教育や児童の状況の全てを反映しているものではありません。しかし、調査より成果や課題が見えてくるものに関して今後の学習指導の参考にするために、結果についての分析を進めています。以下、簡単ではありますが、本校の概要についてご報告いたします。



【国語】

○学習に対する意識（児童質問紙より）

- ・国語の勉強は大切で将来役に立つと考える児童は9割以上おり「授業の内容がよく分かる」と答えている児童も8割以上いる。ただ「国語の勉強が好き」と答えている割合が5割程度で、興味関心を高める必要がある。
- ・自宅の読書時間について4割の児童が「10分より少ない」か「全くしない」と答えているが、3割近くの児童は「1時間以上」と全国の2割に比べ多く、個人差が見られた。この違いが国語の学習への関心度に関わるのではないかと思われる。

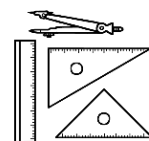
○設問より考察

- ・どの設問についての平均正答率も全国の平均正答率と同様の傾向を示している。
- ・正答率が高い設問でも無回答率が全国に比べ高い。記述式でなく選択式設問においても高いことから、書くことを苦手としているのが原因ではないようである。分布グラフからも得意な児童が多いが、そうでない児童も一定数いることが分かる。
- ・情景や心情を読み取るような物語文ではなく、文章作りの課程を題材に文の構成について読み取ったり、パンフレットの説明の内容に応じた文を加えたりするなど、調べ学習やほかの学習の基本となる力を見るような形式の設問が大半であった。それらの文章の種類と特徴について理解し、情報の関連付けや語句と語句の関連付けを理解して解答することがよくできていた。
- ・「きかんは7月1日から…」の漢字に関して誤答が多く、無回答も多く、漢字を文の中で正しく使うかに課題がある。
- ・「○○さんが、おっしゃったことを、もう一度うかがっていいですか。」の敬語を正しく選択する設問にて、誤答や無回答が多かった。

○今後

- ・文章の主旨や意図を読み取る力に優れているので、そのよさを伸ばしつつ文章の活用や作文につなげられるようにする。

- ・様々な種類の本や文章に出会い、そのよさを知り慣れることで、どの児童も活字に対する抵抗感を減らし、自分の学習や生活に生かしていこうという気持ちにつなげたい。
- ・漢字の暗記から活用に力点を置き、日常生活の中で使う習慣をつけ、表現を豊かにする必要がある。同様に敬語についても理解して使う習慣をつけていくとよいと考えられる。



【算数】

○学習に対する意識（児童質問紙より）

- ・算数の勉強は大切で将来役に立つと考える児童は9割近くいる。授業の内容が分かると答えている児童も9割近くである。「算数が好き」と答えている児童は7割以上である。
- ・「あきらめずにいろいろな方法を考える」「公式やきまりを習うときそのわけを理解しようとしている」と回答している児童が多く、問題の解き方について理解できるよう粘り強く学ぼうとしている様子が見てとれる。

○設問より考察

- ・どの設問についての平均正答率も全国の平均正答率と同様の傾向を示している。「できる」「わかる」という実感があるので“好き”につながっていると考えられる。
- ・選択式や短答式と同様、記述式でも正答率が高く、言葉や式で考えを表そうとしている。
- ・思考・判断・表現の観点における設問に対して正答率が高く、ただ正答を出すだけでなく、なぜそうなるのかを考えて取り組んでいることがわかる。
- ・（ ）を用いた式や加法や乗法の混合した式を設問の意図と関連付けて読み取ることに課題が見られた。

○今後

- ・問題の内容について理解し、解き方を自分なりに考え取り組んだ成果が、十分に結果に反映されている。理解した解き方・考え方をさらに発展させて、他の問題や日々の生活に生かすことができるようにしたい。
- ・複数の式を順序立てて読み取るだけでなく、（ ）を用いるなどして1つにまとめられた式についても読み取ったり活用したりできるようにする必要がある。

【児童質問紙】（63問にわたる、学校生活や家庭生活、また学習などに関する質問）

- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」について、全国や県に比べ多くの児童が「発表していた」と答えている。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」についても、全国や県に比べ多くの児童が肯定的な回答を行っている。学級で友だちと「発表」という形で意見交換をして学習を深めてきた様子が見てとれる。
- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」では、全国の46%に対し、57%の児童が「当てはまる」と答えており、友達とよりよく関わりながら過ごそうとしている様子がうかがえる。



【調査を終えて】

算数において、どのようにしたら答えを求めることができるかを考え、教室で伝え合うことを低学年から取り組んできたことで理解が進み、結果として表れていると考えます。そのように算数が得意であることを自信に、他の教科にも生かしていけるよう取り組んでいきたいです。特に国語に関しては、本に親しむ場面をご家庭と協力して創出し、活字が好きになり学習全般の基礎となる言語活動を高め、漢字や敬語など進んで日常生活に生かしていこう、または日常生活から学ぼうとする姿勢を育てていきたいと思えます。